



札幌芸術の森 開園30周年記念事業報告書

発行日 2017年3月31日
編集・発行 札幌芸術の森（札幌市芸術文化財団）
札幌市南区芸術の森2丁目75
TEL. 011-592-5111（代）
制作 有限会社 マッシュネット

● 30周年事業テーマとロゴ ……2

● 30周年記念事業

① 芸森バースデーウィークマップ ……4

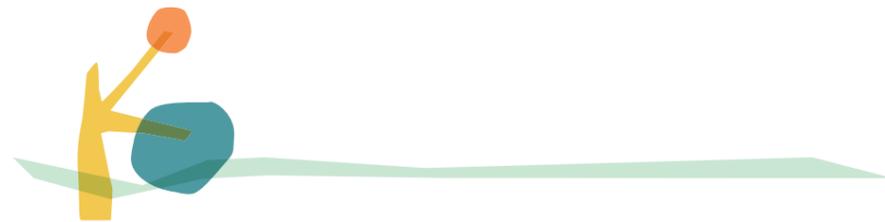
② 美術、工芸、音楽の各分野の記念事業 ……6

③ 野外美術館を会場とした事業 ……8

● 記念事業への取り組み ……10

「芸森バースデーウィーク」気づきが明日の糧になる

● 芸術の森年表〈1986－2016〉 ……16



本報告書は、開園30周年記念事業の企画への取り組みと実施結果について纏めたものである。

記念事業としては、美術・工芸・音楽の各分野での事業とともに、各係の職員で横断的に構成した「周年事業検討部会」でのテーマやロゴの選定、立案事業（「バースデーウィーク」）があった。部会での企画にあたっては、市民の意見を反映させるため、指定管理業務仕様書で設置が定められている「施設運営協議会」で出されたアイデアに、職員から公募したアイデアをあわせて検討を重ねた。部会からの提案に対し、部長・課長による「周年検討委員会」が承認するという形で作業が進められた。

30周年の方向性を決め、園全体の連携を促すための共通のテーマを策定することから、部会の作業はスタートした。

30周年のテーマ
森がはぐくむ

1986年、野外美術館の作品「北斗まんだら」として石と並び植樹されたアカエゾマツは2016年の今、高くそびえ立つ大木の森となり、4本の木彫作品「4つの風」は3本が土に還り、新たな命を繋いでいます。

自然と芸術がともにある場所、芸術の森。ここで生まれ、紹介され、育ったものがたくさんあります。美術、工芸、音楽、ダンス、演劇、パフォーマンスなどの作品が与える感動や驚きは、新たな出会いや創造の原動力になります。

森がはぐくむものは、芸術、人、そして心。

30年を迎える芸術の森は、これからも、人々の豊かな創造をはぐくむ場所であり続けます。（リリース文より）

キャッチコピーは職員から公募した
「もりもり！」

キャッチは「もりもり」。芸術の森には自然がもりもり、いろんな事業がもりもり、楽しさがもりもり！！30年という年月を重ねた芸術の森の営みは、自然豊かな森自体を育み、多彩な事業を育み、個性輝く人を育み、子どもたちを次世代の大人へと育みます。

開園30周年記念ロゴマークでは、30という数字からたくさんの芽が出ています。30年間に育った様々な芽とともに、これからも新しい色々な芽が出ていきます。

このロゴマークには、わくわくすることが「もりもり」ある芸森、誰からも親しまれる芸森でありたい、という思いが込められています。（リリース文より）

ロゴ制作 三善デザイン事務所



30年前のオープン時の野外美術館「北斗まんだら」



2016年の「北斗まんだら」

シンボルマークが30周年ロゴに

「森がはぐくむ」をテーマ＝キャッチとして使用することを部会から提案したところ、委員会からの意見により、キャッチコピーを職員から募集。この中から「もりもり！」が選ばれ、ひらがなの「もりもり！」に修正され決定した。

キャッチコピーを含むロゴの制作にあたっては、30年間親しまれている芸術の森のシンボルマークを活用することで部会の意見が一致。このマークが、開園の際、市民からの公募で選ばれたデザイン案を基に制作されたものであったことから、この時デザインの補作に協力した北海道デザイン協議会の会員であったデザイナー・池田信氏の下で学んでいた三善俊彦氏にロゴ制作を依頼。楽しく、温かみのある30周年のロゴが完成した。

30周年 記念事業①

〔同時開催〕 8/7
PMFピクニックコンサート



芸術の森30周年記念
札幌芸術の森国際ユースジャズキャンプ
ノースジャムセッション

スタンプラリー
園内各所



芸森ふえいばりつと



7/30、31、8/5、6
地球にお絵かき



芸術の森30周年記念
北の織 いま昔



芸術の森30周年記念
フランスの風景「樹をめぐる物語」



ものづくり体験
工芸・版画講習会



8/2
森のおはヨガ

「BON!ダンス」関連プログラム
太鼓ワークショップ



子どもアトリエワークショップ
「光の箱」「粘土で彫刻」



芸森夏まつり 8/6
動物仮装盆踊り「BON!ダンス」



「BON!ダンス」関連プログラム 8/7
動物の仮装グッズづくり
オリジナル行灯づくり



野外美術館無料開放

芸森ウェディング



「樹をめぐる物語」 7/31
関連プログラム
ツリーウォッチング



「樹をめぐる物語」関連プログラム 7/30
森のスケッチとリトグラフ体験

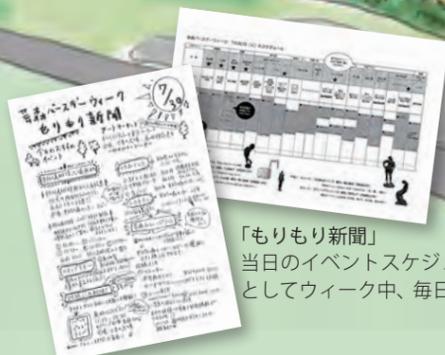


芸術の森30周年記念
芸森バースデーウィーク
2016.7.30(土) - 8.7(日)

お客様への感謝を込め、芸術の森園内全体を会場として9日間にわたりイベントを開催した。

芸術の森美術館展覧会「樹をめぐる物語」、工芸館展覧会「北の織」、野外ステージ・アートホールでの「国際ユースジャズキャンプノースジャムセッション」、野外美術館無料開放、「BON!ダンス」など、これまで芸術の森で育ててきたものを発展させた事業、芸森ならではの環境や特性を活かした企画を実施。期間中 42,941名のお客様を迎えた。次ページで各事業を紹介する。

開催日程の記載がないものは、バースデーウィーク期間中全日程開催



「もりもり新聞」
当日のイベントスケジュール
としてウィーク中、毎日発行。



動物の絵をちりばめた
うちわを無料配布

7/30、31
サッポロ・シティ・ジャズ
パークジャズライブ



芸森夏まつり 8/5
動物仮装盆踊り「BON!ダンス」



「BON!ダンス」関連プログラム 8/5
動物の仮装グッズづくり



芸森アートマーケット 2016



30周年 記念事業②

美術館・工芸・音楽の各分野の記念事業

フランスの風景 樹をめぐる物語 札幌芸術の森美術館

札幌芸術の森美術館のコレクションの方針の一つに、人類の起源である森に関連する作品をコレクションすることが掲げられている。美術館で開催した「フランスの風景 樹をめぐる物語」は、芸術の森を象徴する企画でもあった。ロマン派からフォーヴまで、フランスの風景画を樹々に焦点をあてて紹介。フランスの近代風景画を列挙するのではなく、「樹木」というテーマを設定することで、さまざまな美術動向の特徴がより明確になった。

展示会とあわせ、学芸員による解説のほか、野外美術館内で森をスケッチし版画を制作するワークショップや、隣接する市立大学と連携し画に描かれた樹木を検証する自然観察ツアーを行うなど、自然豊かな芸術の森の立地を活かした関連事業を各種実施し、好評を得た。



北の織 いま昔 工芸館

これまで様々なテーマで北海道の工芸を紹介してきた工芸館で、北海道の織物の歴史と現在をあわせて紹介する初の展覧会として企画した。北海道博物館、アイヌ文化振興・研究推進機構などの歴史資料、現在北海道で活動する25名の織作家の作品、北海道を代表する3つのブランドを展示し、北海道の織の「いとむかし」を紹介。北海道の織の歴史の変遷を辿りながら、今に受け継がれる伝統の技術と現代の作家の自由で多彩な表現を伝える貴重な機会となった。



札幌芸術の森 国際ユースジャズキャンプ ノースジャムセッション

7月31日(日)~8月6日(土) 野外ステージ・アートホールほか

札幌芸術の森では、ジャズ音楽を通じた豊かな感性を育むことを目的として札幌ジュニアジャズスクールの活動を2000年より開始。2013年からは、この活動を道内各地に広げていく「北海道ジャズの種プロジェクト」を展開。

札幌芸術の森開園30周年の本年、これら北海道の子どもたちが札幌に集まり、ノルウェーをはじめとする海外4カ国の子どもたちを含む総勢172名が参加する一週間のミュージックキャンプを開催した。期間中、地域や国柄を越えて9つの混成バンドを編成し、アートホールで合同練習を行ったほか、芸術の森の工房や野外美術館などで文化交流プログラムや札幌市内でライブ活動を開催。キャンプの最終日には、野外ステージで開催したノースジャムセッションで成果発表を行った。



30周年 記念事業③

野外美術館プログラム

“自然とアートの融合”空間を活かす

芸森バースデーウィーク期間中は、芸術の森の30年を象徴する「野外美術館」を無料開放し、ここを会場とした様々なプログラムを実施。スローライフの観点での新企画「森のおはヨガ」、ロケーションを生かした「芸森ウェディング」、これまでの活動の蓄積を生かした野外美術館解説ボランティアの「特別解説」、来園者による「彫刻人気投票」、そして、30周年の集大成として、芸森夏まつり「動物仮装盆踊り BON!ダンス」を企画。たくさんの人々が野外美術館に集い、笑顔が溢れた。

スローライフ 「森のおはヨガ」

8月2日(火) 子どもアトリエ、「北斗まんだら」横
開園前の朝の野外美術館でヨガと朝食を楽しむイベント。ヨガ会場前の子どもアトリエでは、同伴のお子様向けに小さい作品づくり無料ワークショップを同時開催。ヨガの後、道産食材にこだわったサンドイッチを提供、ピクニックのようにゆったりと楽しんでいただいた。



親子で動物に変身



大人気で材料がなくなった
仮装グッズ作り



職員の手作り露店で
ヨーヨーつりに夢中



芸森夏祭り BON!ダンス

8月5日(金) 工芸の広場
8月6日(土) 野外美術館「北斗まんだら」付近
出演: 縄文太鼓演奏家/茂呂剛伸、ピアノパフォーマー/福田ハジメ、日本舞踊家/西崎鼓美

太鼓の「音楽」と「踊り」のパフォーマンス「音楽舞台芸術」、会場とした野外美術館「北斗まんだら」が象徴する「美術」「自然環境」「30年の年月」、焼き物である縄文太鼓の「工芸」要素、動物仮装グッズやオリジナル行灯などの「ものづくり」、会場の地面を彩る地球にお絵かきなど、芸術の森の特色となる要素を盛り込んだ参加型事業。

1日目は地域の方を中心に工芸の広場で、2日目には野外美術館に会場を変え、ノースジャムセッションの出演を終えた国際ユースジャズキャンプ参加の子どもたちも一緒に楽器を弾いて踊って BON!ダンス。芸術の森の30年が育んだものが、森と一体になった瞬間であった。



ユースジャズキャンプの参加者も BON!ダンス



ジャズスクール生が即興演奏



彫刻の横で太鼓体験

話題性 芸森ウェディング

8月1日(月) 野外美術館
公募でフォトウェディングをプレゼント。野外美術館が二人の思い出の場所、という道東にお住まいの権さん夫妻が選ばれた。



7月30日(土)、31日(日)、8月6日(土)、7日(日)
1日4～5コース、各5回

野外解説ボランティアによる彫刻作品の特別解説。「佐藤忠良 & 四つの風コース」「隠された庭への道コース」「獣道コース～シャフトII & 間コース」など、テーマ別に選んだ作品を30分で案内。ボランティア歴3～22年の14人が熱意と愛情を込めて解説し、好評を得た。

市民参加型 野外美術館彫刻人気投票



野外美術館の74点の彫刻作品の人気投票。お気に入りの彫刻へのコメントを書いた付箋で1票。熱い思い、ユニークなコメントに彫刻作品が多くの人に長年愛されてきたことがうかがえた。「触りたかった」(ミロク 89-1)、「残りひとつの風、がんばれ!」(4つの風)、「初恋の相手です」(抜海の漢)

会場: センターロビー

総投票数: 1,344件	
1位: 椅子になって休もう	247票
2位: 隠された庭への道	124票
3位: のどんことはなのあな	104票

芸術の森 30周年記念

「芸森バースデーウィーク」 気づきが明日の糧になる!

■部会メンバー(※座談会出席者)

大野 典子(管理課業務係長)※
坂本 このみ(管理課業務係)※
池田 望(事業課調整担当係長)※
安澤 洋(事業課事業係)※
丹羽 祐子(芸術の森美術館事業係長)

岩崎 直人(芸術の森美術館
学芸企画担当係長)
垣内 陽子(芸術の森美術館事業係)※
佐藤 康平(芸術の森美術館事業係)
木谷 亮嗣(芸術の森美術館工房係長)
本間 元望(芸術の森美術館工房係)※

職員・運営協議会からのアイデア

【スローライフ】
ヨガ / バードリ
ニング & ウォ
ッチング / 芸
森マルシェ / 食の芸
森 / げいもリグ
ルメ! / 花壇ア
ート / ツリーハ
ウス & ハンモ
ック / アートフ
ットパス / PMF
やジャズの練
習の鑑賞(BGM
としてきこえて
くる) / バード
ウォッチング /
暮らすことを
テーマにした
使いこみたく
なるものづく
り教室 / 大人
向け芸術教室
【食】パン・
弁当の販売 /
カフェ(有島
部力フェ・夜
カフェ)

管理、事業、美術館、工房の係を越えた部会での十数回に渡るミーティングからバースデーウィークの企画が生まれた。準備や実施、振り返りの中で気づくことは数多く、次のステップへのアイデアや課題が見えてきた。(この記録は、部会の担当者による平成29年1月に行った座談会をメインに構成しました)

スローライフ視点から生まれた「森のおはヨガ」

……バースデーウィークの企画にあたり、新たに全職員からアイデアを募集。運営協議会や部会で出ているものを含む50を超えるアイデアを部会で分類、選定し、企画としてまとめていった。野外美術館での新規企画「おはヨガ」は、運営協議会と職員双方からのアイデアを基に、スローライフの視点で発展させ、子育て世代を取り込む工夫を加えて誕生した。……

垣内 ■朝、お客様が来る前の職員しか知らない園内の気持ち良さ。芸術の森のスローライフな一面を活かして、子どもと一緒に参加でき、かつ子どもは子どもで、大人は大人でそれぞれに楽しめるイベントにしたいと思っていました。

安澤 ■子ども連れで参加しやすいように芸森ならではのものづくり体験が託児がわりになって、「おはヨガ」のネーミングも敷居を下げた感じで、いいですね。

野外カフェ / 料理教室 / ぱりどぐらのホットケーキ / 野外クッキング WS / 収穫イベント & お料理体験 / ガーデンパーティー / アルコールの充実 / 有島邸でコーヒー / ラーメン研、カレー研の出店(市立大) / 高級ディナー(有料)【子ども・ファミリー向け】読み聞かせ / ゆかたデー / 紙ひこうき / 顔ハメパネル制作 / ちびっこキュレーター・解説員 / ツクルスクール / 鳥のアパートメント / 工芸館で巨大ピタゴラスイッチ / 家族で参加できる講習会 / クイズの設置(アートフットパス) / 撮影スポット(自撮棒レンタル) / インスタントカメラ(チェキ)の貸し出し / 子どもの参加型パフォーマンス / 子どもたちのためのものづくりスクール / 親子でつくるワークショップ【イベント】げいもりのいまむかし / LIVE Works / サウンドアートフェス / 逃走中〜椅子になって休もうの21人を探せ / 花火 / 熱気球体験(保留) / 空から見ようげいもりバルーン!(フライト) / ファッションショー / 芸森メンズデー / 芸森キノコウモリ祭 / 24時間フェスティバル / ユルキャラ / 来園者へ絵葉書プレゼント(知人に送って芸森をPRしてもらう)

坂本 ■ものづくり体験は子どもアトリエで。親子が近くに居られるように、ヨガの会場はアトリエ前の北斗まんだらにしました。

大野 ■担当の垣内さんと坂本さんも子育て中。ターゲットの子育て世代のニーズをしっかりと押さえて定員になった。朝食もおいしそうで。

垣内 ■スローライフをイメージし、道産食材やオーガニックにこだわり、南区にあるカフェにサンドイッチを頼みました。ピクニックのようで良かったと好評でした。

池田 ■おいしい食べ物があると、思い出の残り方も違う。

坂本 ■野外美術館で何かやりたいという思いが、部会メンバーの中に結構ありましたね。

大野 ■素敵な場所なので、彫刻を見ているだけというのももったいない。彫刻の横でヨガのポーズをとっているのも面白い。

垣内 ■野外美術館の名前は知っていても、なかなか足を運んでもらえない。良さを伝えられていない気がしていました。来てもらうきっかけづくり「おはヨガ」はなかったかな。

池田 ■健康志向の意識の高い方は、朝早いのも苦にならないし、特別感を感じるので、芸森の遠さはデメリットにならないね。

安澤 ■室内でやるヨガとは違い、ライフスタイルみたいなものが関わってくる。素敵と思うか思わないか、ですよ。参加者は情報をどこから入手してきたんですか。

垣内 ■「広報さっぼろ」です。子育て世代の方はよく読んでいます。



コラム

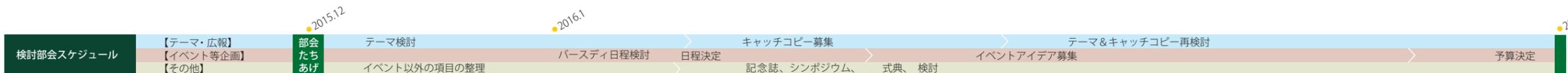
「芸術の森活性化プロジェクト」→「100万人委員会」 →「施設運営協議会」→「30周年」

開園25年目の2011年、係を越えた職員による「芸術の森活性化プロジェクト」を立ち上げ、芸術の森についてSWOT分析を行い、施設活性化へのアイデア、短期・中期・長期での事業計画の提案書をまとめた。(この中の野外美術館での「〇〇の日」の案は、後に犬を連れて来館できる「わんわんよい日」事業となった)13年には、「年間100万人の入園者」を目標に、前年に連携協定を結んだ札幌市立大学教授やメディア、地域、ボランティアなどによる外部委員会「100万人委員会」を発足させ、屋上緑化や食をテーマに彫刻をかたどったパン作りなどを実現した。提案されたアイデアを速やかに実行するという取り組みがここからスタートした。

職員と外部委員のグループディスカッションで進める施設運営協議会

14年には、指定管理制度業務仕様書に基づき既に別に設置していた「施設運営協議会」に100万人委員会を合わせて一本化。札幌市、利用者団体、地元自治会、学識経験者に加え、メディア、旅行業、市立大学教授など幅広い構成員となった。15年からは意見交換のスタイルとしてグループディスカッションを取り入れ、職員と協議会委員が対話する場を設定し、翌年の30周年に向け、芸術の森の魅力と事業の提案をテーマとした。「お祭り」「ツリーウォッチング」「写真スポット」「ダンス」「親子が別々に楽しめる」など自然や芸森のポテンシャルに注目したアイデアが今回の企画に繋がった。同年秋には、提案のひとつ「モデルコースづくり」を行いチラシに盛り込み、秋の集客のための広報として展開した。

アイデア実現の場であった「部会」の動きは、過去5年間の職員と外部委員の取り組みから繋がっている。



30歳の人無料 /30年以上活動している作家の作品を設置 /30人の作家による30箇所での作品制作 /芸森の30周年を振り返る /芸森ウェディング参加者を集める /ピクニック・大パーティー /市民を招待 /カーニバル /アート手帳の配付【ギネス】巨大壁画など /流しそめん大会 /巨大ケーキづくり【夜間】野外美術館 ナイトミュージアム /大人の子どもアトリエ(ヌードデッサン教室) /野外美術館でもだめし /昆虫採集 /天体観測・星空観察会 /野外映画会 /灯籠を灯そう /夜間合唱(カエルコラボ) /プロジェクションマッピング(野外・噴水) /キャンプ /コウモリウォッチング /かえるの合唱鑑賞会 /美術館に宿泊【市民参加】収蔵庫ツアー /バックヤードツアー /アートトリアスロン /げいもりトレイルランニング /カホン WS /カリンパ WS /カホン 100人コンサート /ダンス・ゴスペル体験 /野外劇 /モニュメント制作 /マイ彫刻プレゼン /レストランメニュー等の公募 /お猪口作り(お父さん向け) /クラフト工房でお土産づくり /市民による展覧会(美術館や芝生スペースを利用) /作品作り /創作ダン

安澤 ■横断チームで部会を作ってアイデアを出し合っていると、アイデアが所属を超えてリンクすることがあって、ヨガもその一つ。スローライフというキーワードがいろいろな部署から出てきた。そういうのってやりがいがあります。

坂本 ■みんながやりたい、あったらいいなと思っていることが、部会で話せた。発案した人だけではなく、みんながいろいろ考えていて、所属の美術や音楽の分野にもとられなかった気がします。ヨガは、継続したい企画ですね。



バラバラで動いていた事業を集約した「BON! ダンス」

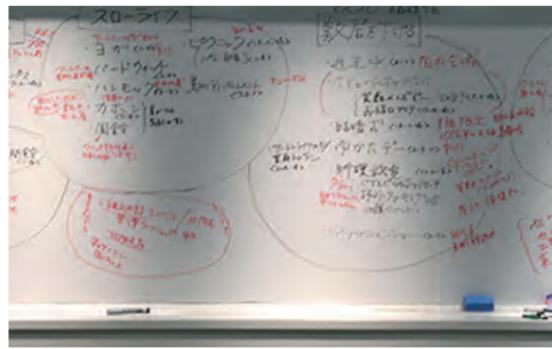
…… いくつかのアイデアを集約したのが「BON!ダンス」だった。野外美術館、縄文太鼓、盆踊りと国際ユースジャズキャンプが連携して、「芸森バースデーウィーク」の最後を賑やかに締めくくる企画となった。……



坂本 ■ホワイトボードに職員の沢山のアイデアを分類し、意見を交換していたとき、木谷係長が縄文太鼓の話始めて、その日のうちに枠組みとタイトルまで決まったのが「BON!ダンス」だったんですよ。

本間 ■昨年、北海道陶芸協会との共催で登り窯でワークショップを行ったとき、窯の前で縄文太鼓を演奏してくれたのが茂呂剛伸さんでした。太鼓とお祭り(盆踊り)が今回のテーマに合うのではないかと、一気にまとめていった。発想も、ネーミングもそうです。

池田 ■木谷さんは中身とタイトルをセットで出してくるね。基本はだじゃれセンスみたいなもので(笑)。



坂本 ■職員からカホンやカリンパなどの楽器制作 WSやコンサートのアイデアが元々あった。芸森の自然に溶け込むような音や音楽が園内で流れるような企画をしたいと話合っていて、そこに北海道の土とエゾシカの皮を材料にしているという縄文太鼓がぴったりはまった。

ス【その他】講演会 /芸森 30周年記念感謝祭 /オリジナルグッズ開発 /休憩スポット設置 /Fmgeimori /願かけスポット /アート・ゴー・ラウンドバス /お・も・て・ば・し /デジタルサイネージの利用 /インフォメーションの設置 /国際化(英語表記の変更) /サインのデジタル化(AR) /イメージ・ロゴマークキャッチフレーズ /芸森塗り絵(グッズ) /サポーター制度(芸森好きに応援してもらう) /製品開発(協力:札幌手織/職員証や包装紙など) /ロゴマーク・周年デザイン作成 /お菓子製作(有名メーカーとのタイアップ) /森の財産を活用する取り組み /貴重な収蔵作品に着想を得る de-ta【スローライフ】ヨガ /バードリスニング&ウォッチング /芸森マルシェ /食の芸森 /げいもりグルメ! /花壇アート /ツリーハウス&ハンモック /アートフットパス /PMFやジャズの練習の鑑賞(BGMとしてきこえてくる) /バードウォッチング /暮らすことをテーマにした使いこみたくなるものづくり教室 /大人向け芸術教室【食】パン・弁当の販売 /カフェ(有島部カフェ・夜カフェ・野外カフェ) /料理教室 /りとぐ

大野 ■市民参加型のお祭りのような企画で園内に賑わいをつくりたいとも話してました。8月なので盆踊りなら親しみもあるねと。普通の盆踊りでなく動物仮装にすれば楽しくて、仮装グッズづくりも工房でできるねと。

坂本 ■正門から工芸の広場を見たときの賑わいのある映像をイメージして、そこを会場にしよう。でも、野外美術館をどうしても会場にしたいと、2日目は会場を移すことにしたんですね。

大野 ■シンボルにしたかった手作り巨大行灯は、移動可能な小さいパネルになったけど。

池田 ■木谷さんから「ユースジャズキャンプの子たちを、子ども盆踊りと北海盆踊りを演奏できる



るようにしてほしい」という要望があり、札幌の子たちがしっかり演奏してくれました。国際ユースジャズキャンプ参加者の親御さんからも「トータルとしていい場所で過ごせてよかった」と言ってもらいました。当日、野外ステージでノースジャムセッションの演奏を終えた子どもたちがみんなで踊って、スウェーデンやノルウェーからの親御さんも日本的なことが体験できたとすごく喜んでくれました。

安澤 ■当初、バラバラに動いていた事業を集約した感じだし、事業課の30周年事業も「BON!ダンス」と連携できた。

人々の暮らしに寄り添う企画。美術館、工芸、音楽ではない、ゆるゆるな事業でキャッチ

…… 利用者目線で考えると暮らし、食にまつわるアイデアが多く出てきた。みんなの中にある芸森の場の持つ可能性が広がっていたのである。……

池田 ■世の中の動きを見ると出てくるんだと思うんだけど、どうしたらお客さんが来てくれるのかなと考えるより、自分ならどういうものに行きたいかを考えることが大事なのでは。

安澤 ■どうしても課内に閉じこもって考えると、携わっている仕事の中で考えてしまう。別の土俵の上で物考え出すと、利用者の目線になるのかな。そういう発想の仕方って、課から抜け出るとか、日常でない環境の中で考えると、こうして話す、ディスカッションできる場があるからじゃないかな。シティ・ジャズをやっている時は、利用者目線で考えるんですが、園全体のことを利用者目線考えたのは今回が初めてでした。

池田 ■こういう機会がないと考える機会がなかなかないので。話すことで生み出すアイデアも大事だけど、途中経過の効果が大きいかも。

安澤 ■今見ても出てきたアイデアはみんな面白そうですね。結構厳重なフィルターを通過して残ったのがこれなのかと思うと感慨深いですね。お題目とかあったんですけど。

坂本 ■まったくなく、自由に出してもらった。お金がないのも重々承知でしたが、経費のことや、実現可能かどうかとも考えなくて良い、とにかくなんでも良いと。

安澤 ■事業課でも、ホワイトボードがびっしりになるほどいろいろなアイデアが出ました。意外

らのホットケーキ/野外クッキング WS /収穫イベント&お料理体験 /ガーデンパーティー /アルコールの充実 /有島邸でコーヒー /ラーメン研、カレー研の 出店(市立大) /高級ディナー(有料)【子ども・ファミリー向け】読み聞かせ /ゆかたデー /紙ひこうき /顔ハメパネル制作 /ちびっこキュレーター・解説員 /ツクールスクール /鳥のアパートメント /工芸館で巨大ピタゴラスイッチ /家族で参加できる講習会 /クイズの設置(アートフットパス) /撮影スポット(自撮棒レンタル) /インスタントカメラ(チェキ)の貸し出し /子どもの参加型パフォーマンス /子どもたちのためのものづくりスクール /親子でつくるワークショップ【イベント】げいもりのいまむかし /LIVE Works /サウンドアートフェス /逃走中〜椅子になって休もうの21人を探せ /花火/熱気球体験(係留) /空から見ようげいもりバルーン!(フライト) /ファッションショー /芸森メンズデー /芸森キノコウモリ祭 /24時間フェスティバル /ユルキャラ /来園者へ絵葉書プレゼント(知人に送って芸森をPRしてもらう) /30歳の人無料 /30年以上活動

とみんな芸術の森で何かやりたいんだなあ、と思いました。あらためて見てみると日常性がでてきますよね。暮らしというか、食とか、スローライフとか今まで芸術の森ができなかったことが、僕らの中にはコンプレックスとしてあるのかもしれないね。日常の中にアートがある。それをわかりやすく伝える、そういう提案が今までできなかった、ということじゃないかな。

池田 ■出したアイデアの数に比べて実現したのは少ないかもしれないけど、今後は単発とかで使っていけると思います。

垣内 ■芸森という場の持つ可能性を感じますね。

安澤 ■30周年では実現できなかったけど、「ぐりとぐらのパンケーキ」とかやりたいですね。

池田 ■芸術、文化に縁遠い人には、ダンスだとか、工芸だとか言っても届かないと思うんですが、ホットケーキ作るといえば、行く行くとなる。四季に合わせて「スプリングフェスタ」「あったかサンキュー・デー」など園全体を使ったイベントがあるので、そこで、「食」とか「遊び」のようなコンテンツを子どもや大人用にわけてつくる。ただ参加するだけでなく喋ったり交流する要素は絶対必要だと思う。たとえば冬の「雪あかり祭典」の餅つき大会は、昔からの恒例行事だけど人気あるでしょ。流しそうめんも子どもも大人も楽しめる。場さえ作れば。

安澤 ■流しそうめんやりましょう。

坂本 ■芸森にいろんな虫がいることや夜が素敵であることは魅力だけどPRできていないのが課題。例えば昆虫採集の企画を立ててPRしてみるとか。

本間 ■今回は、芸術の森ってこんなこともできるんだと、新しくこの先5年、10年先の芸森の姿を考えてつくっていったのかなという感じがします。今後、人々の暮らしに寄り添っていく存在に、芸森がなりたいのかな、と思いました。実現したアイデアを見ているとそういう印象があります。大野 ■どこの事業にも属さない、ゆるゆるなことがたくさんあり、それが人をキャッチできるものかもしれないですね。

連携への意識が大きな成果。次は他の課へのお試し研修？

…… 30周年記念事業を通じて見えてきた課題に、前向きに取り組む下地ができた。……

垣内 ■部会に出ることは自分が抱えている仕事にプラスアルファにはなってしまうんですが、メンバーになれたのは幸運なことだし、良かった。普段関われない仕事や、夢のように思っていたことも、できるできないに関係なく、話し合える機会を持つことができた。

今開催中の「ディズニープリンセス展」(※1月)にはたくさんのお客様が来られて、オール芸術の森で駐車場などの対応にあたったんですが、パースデーウィークはその訓練になっ



している作家の作品を設置 /30人の作家による30箇所での作品制作 /芸森の30年を振り返る /芸森ウェディング参加者を集める /ピクニック・大バーディー /市民を招待 /カーニバル /アート手帳の配付【ギネス】巨大壁画など /流しそうめん大会 /巨大ケーキづくり【夜間】野外美術館ナイトミュージアム /大人の子もアトリエ(ヌードデッサン教室) /野外美術館でもだめし /昆虫採集 /天体観測・星空観察会 /野外映画会 /灯籠を灯そう /夜間合唱(カエルコラボ) /プロジェクションマッピング(野外・噴水) /キャンプ /コウモリウォッチング /かえるの合唱鑑賞会 /美術館に宿泊【市民参加】収蔵庫ツアー /バックヤードツアー /アートライアスロン /げいもりレイルランニング /カホン WS /カホン 100人コンサート /ダンス・ゴスペル体験 /野外劇 /ミニチュア制作 /マイ彫刻プレゼン /レストランメニュー等の公募 /お猪口作り(お父さん向け) /クラフト工房でお土産づくり /市民による展示会(美術館や芝生スペースを利用) /作品作り /創作ダンス /芸森30周年記念感謝祭



た気がする。全体でやるんだという意識が、職員の中に芽生えたと思います。

大野 ■連携といえば、去年工芸と美術館がひとつの課になったので、目に見える事業も増えましたよね。

本間 ■美術館の展示会の関連ワークショップを意識的にクラフト工房で企画するようになりました。

大野 ■今年は部会を通して自然と連携しあう意識ができたのは大きな成果だと思う。今後も入園者数を増やす戦略やお客様へのサービスなどについても課を超えて話し合っていきたいですね。

池田 ■アイデアや分類整理した表など今回の実現までの過程を含めてとっておくといいですね。

垣内 ■30周年プロジェクトのメンバーが、バラバラになってしまったらできるのかな。日常の忙しさにかまけてできなかったらもったいないので、組織を変えていかなければ。

安澤 ■芸森に広報課って作らないんですか？

垣内 ■そうそう。総合窓口的な。海外の観光客の方にも、例えば星空ツアーもできますよとか。

安澤 ■互いの仕事を知るために1週間くらい工芸、美術館等で職場体験してはどうか。

垣内 ■修業というか。おためし研修みたいなね。

大野 ■今回集まったメンバーはとても前向きで、忙しい中でも関わろう、良いものを作ろうという意識があった。部会のような横断的な仕事がプラスされるのでなく通常の業務の一部になるといい。今回の部会は周年で無理してみんな頑張ったけど、持続はできない。広報を専門に担当する部署は必要だと思うし、アイデアとともに課題も多く出てきたので、これからもみんなで前向きに取り組んでいけたらと思います。

